

# 【テーマ】 人口流出による労働力不足の対応策について

## >>> 労働関係人口の増加策について

1班

近藤芳香 谷田湧綺 山本正太郎 三輪桃子

家木千里 阿部晃大 森棟裕貴

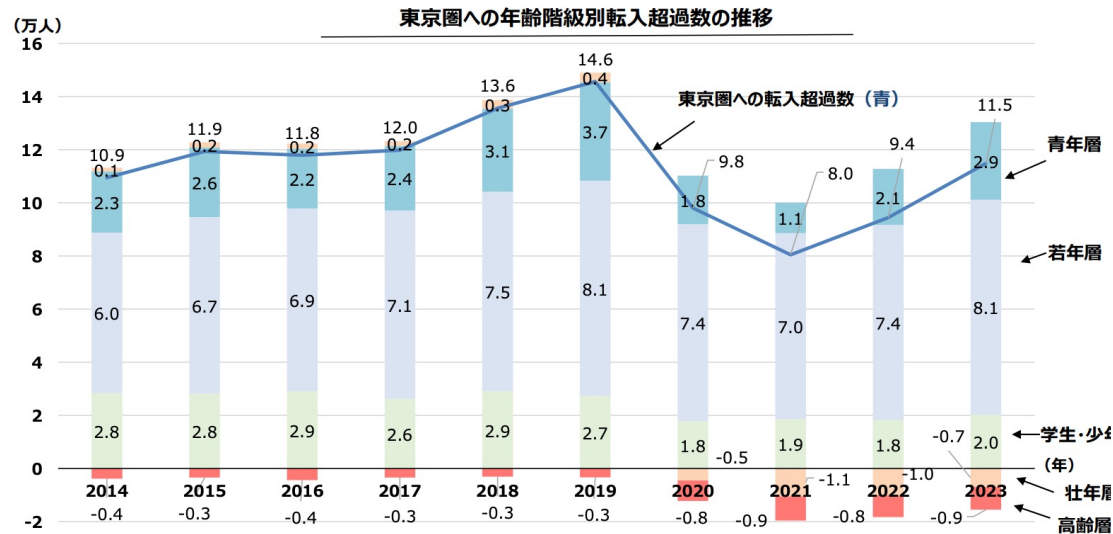
# 1. 課題

## ① 人口流出の現状について

### 1. 要点 (問題意識)

#### 若年層の東京圏への転入増加

- 東京圏への転入超過数を世代別にみると、特に若年層（20歳から24歳）が多い。
- また、男女別でみると、2009年からの直近15年間の累計で、女性の方が20.8万人多く流入（女性：89.0万人、男性：68.2万人）。



(注) 学生・少年層は19歳以下、若年層は20～24歳、青年層は25～39歳、壮年層は40～59歳、高齢層は60歳以上。東京圏は、東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県。  
各年の12月末日における東京圏への日本人移動者の転入・転出数を集計。  
(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に経済産業省で作成。

- ▶ 東京圏への人口流出の増加  
(特に若年層)

※コロナ禍で一時的に減少したが、回復しつつある



地方の労働人材の不足

(引用) 経済産業省「少子化対策に資する 地域の包摂的成長について」

# 1. 課題

## ② 人口流出 & 非流入の背景

### 1. 要点 (問題意識)

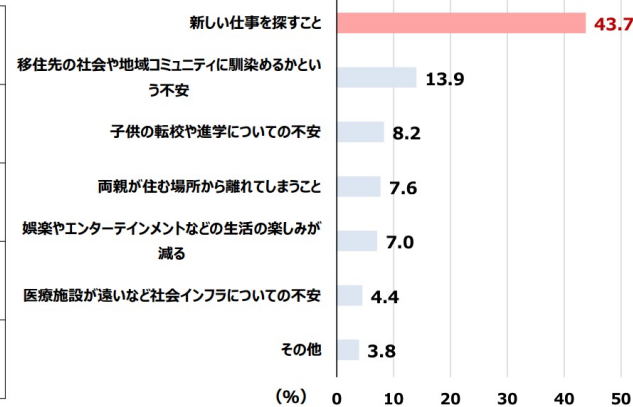
#### 東京圏への転入超過の背景 (仕事の重要性)

- 東京圏への移住の背景には、希望する職種や賃金等の待遇が良い仕事が見つからないといったものが多い。
- また、東京圏から移住する際の大きな阻害要因も、「仕事探し」。

東京圏への流入者の移住の背景となった事情  
(母集団：東京圏外出身の東京圏在住者)

1位	希望する職種の仕事が見つからないこと (全体：25.6%) ※男性：28.4%、女性：22.9%
2位	賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと (全体：19.5%) ※男性：23.4%、女性：15.5%
3位	希望することが学べる進学先がないこと (全体：15.2%) ※男性：15.3%、女性：15.1%
4位	自分の能力を生かせる仕事が見つからないこと (全体：14.8%) ※男性：18.8%、女性：10.9%
5位	日常生活が不便なこと (全体：11.9%) ※男性：10.0%、女性：14.0%

移住する際の阻害要因  
(母集団：移住への関心が高くなった東京圏在住者)



- ▶ 希望職種がない
- ▶ 自分の能力を活かせない
- ▶ 低賃金などの労働条件



地方から流出 / 地方に非流入



労働人材の不足

(注) 左図：東京圏外出身の東京圏在住者を対象としたアンケート調査 (有効回答数：519人。うち男性261人、女性258人)。「あなたが地元に残らずに移住することを選択した背景となった事情として、あなたの地元にあてはまるものを全てお選びください。」の回答に対し、回答割合が上位5位のものを選挙。出身地は、15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。  
右図：「今回の感染症の影響によって、移住についての関心に変化はありましたか。」との質問に対して、「関心が高くなった」あるいは「やや高くなった」と回答したものが対象。東京圏の居住者158人の回答を集計。

(出所) 左図：国土交通省「企業等の東京一極集中に関する懇談会 とりまとめ」市民向け国際アンケート調査結果 (調査期間2020年9月18日～10月8日) を基に作成。  
右図：内閣府「新型コロナウイルス感染症が地域の働き方や生活意識に与えた影響に関する調査」(調査期間2021年1月15日～20日) を基に作成。

## 2.解決に向けて

### ①地方の労働人材の確保元

▶ どこから？

市内から/市外から

▶ 誰を？

若者(学生～社会人)を/リタイア層を

松山市外の若者の流入を目指す



松山の魅力を体感してもらう

## 2.解決に向けて ②既存の取り組み例 1

### ▶ わかやまCREW@和歌山県(2021～)

「キャンパスでは体験できない、地域の学びと出会いがここに」をスローガンに、「地方の暮らしが知りたい、困っている地域のために何か手伝いたい、地方で自分の可能性を試してみたい」という**学生向け**に、体験期間は**1日～1ヶ月まで幅広く選択可能**とし、“地域の「お手伝い」をする代わりに地域体験を提供する”和歌山県の事業。

学生向けの短期滞在型体験プログラム

～都会ではできない体験を和歌山で～

**わかやま CREW**  
—— 和歌山で地域体験! ——

地方の暮らしが知りたい、困っている地域のために何か手伝いたい、地方で自分の可能性を試してみたい方。  
地域の「お手伝い」をする代わりに「地域体験」を提供します。

お手伝いをしながら地域で暮らすコツや、働き方のノウハウが学べます!

The diagram shows two groups of people. On the left, under the label '地域のお手伝い' (Local Help), a man and a woman are shown with their arms raised in a celebratory gesture. On the right, under the label '地域体験' (Local Experience), a man and a woman are shown standing together. A central red circle with the word 'Matching!' and radiating lines connects the two groups, with arrows pointing from each group towards the circle.



愛媛県松山市へ  
移住を検討中の方

## まつやまの 港町暮らし体感ツア

1泊2日  
（松山港発）

日程 2023年11月4日（日）～5日（月）

対象 松山市三津浜地区への移住を検討している皆様

参加人数 15名（応募多数の場合は、申込順の内容からさせていただきます）

旅行代金 おひとり様 **15,000円**

**ポイント**

- 移住者のお店見学
- 先輩移住者との交流会
- 移住コンシェルジュ・地元不動産会社と個別相談開催

移住者のお店見学  
先輩移住者との交流会  
移住コンシェルジュ・地元不動産会社と個別相談開催

ツアーの詳細はこちらから  
<https://f-j-t.co.jp/archives/238>  
お申し込み受付/2023年10月8日（日）

TEL: 089-961-6662 受付時間/10:00～18:00  
Email: emifull@f-j.jp 住所: 104-0801

## 2. 解決に向けて

### ② 既存の取り組み例 2

#### ▶ まつやま移住体感ツアー@愛媛県松山市

近年、地方への移住の関心が高まっているが、松山市への移住を促すことを目的として、首都圏在住者を対象に、港町と里島の二つの地域を舞台とした、現地の暮らしや起業・魅力を体感できるツアー、「まつやまの港町暮らし体感ツアー」「まつやまの里島暮らし体感ツアー」を開催。様々な体験に加え、先輩移住者との交流や移住コンシェルジュ/地元不動産会社と個別で相談会も含まれ、移住して起業や島暮らしを希望する方の不安を減らし、松山市への移住を後押しする。

**一泊二日、お手頃価格で参加可能なツアー  
～まず、松山市を知ってもらおう取り組み～**

愛媛県松山市へ  
移住を検討中の方

## まつやまの 里島暮らし体感ツア

1泊2日  
（松山港発）

日程 2023年11月25日（日）～26日（月）

対象 松山市島嶼部の移住を検討している皆様

参加人数 15名（応募多数の場合は、申込順の内容からさせていただきます）

旅行代金 おひとり様 **15,000円**

**ポイント**

- 移住者の自宅・お店訪問
- 移住者・島民・地域おこし協力隊員との交流会開催
- 島の空き家をご案内

移住者の自宅・お店訪問  
移住者・島民・地域おこし協力隊員との交流会開催  
島の空き家をご案内

ツアーの詳細はこちらから  
<https://f-j-t.co.jp/archives/23855>  
お申し込み受付/2023年10月29日（日）まで

TEL: 089-961-6662 受付時間/10:00～18:00  
Email: emifull@f-j.jp 住所: 104-0801

## 2.解決に向けて

### ②既存の取り組み例 3



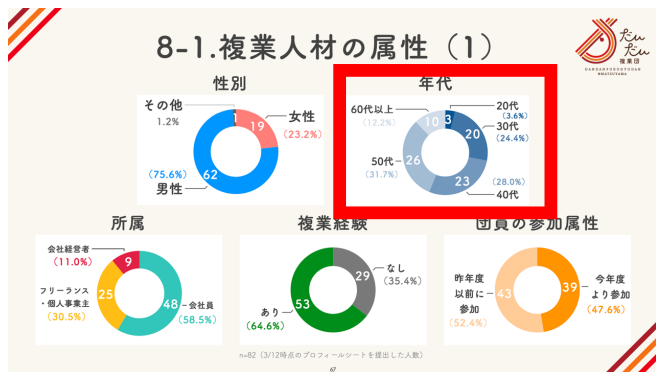
#### ▶ **だんだん複業団**@愛媛県松山市

人手不足など様々な問題を抱える松山市内の企業と**自らのスキル／経験を活かしたいと考えている多様な人材**によるマッチングを通じて、企業課題の解決や関係人口の創出を目指す、松山市の事業。複(副)業の実施場所は問わない。

**幅広い年代向けの中・長期にわたる副／複業プロジェクト**

**～松山市と日本各地の多様な人材とのつながりを大切に～**

# ～だんだん複業団の現状～



<統計より>

▶ 参加年代

: 40代以上が6割。 20-30代は3割未満。

▶ 経験職種は様々。

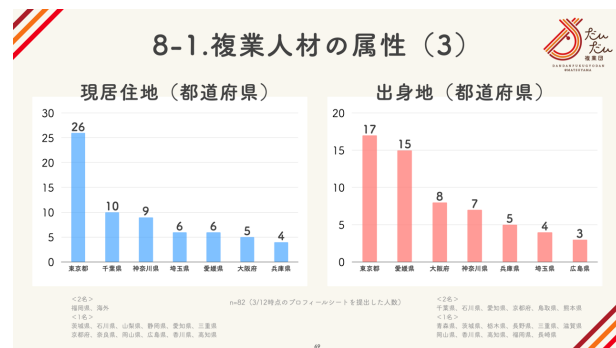
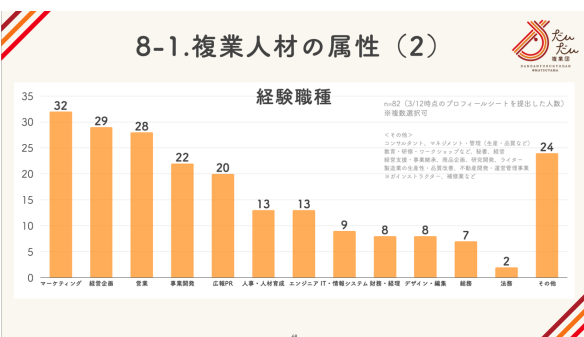
▶ 居住地：大半が首都圏。

▶ 出身地：東京が最多、続いて愛媛。



**首都圏に住む若者(学生～社会人)**

**へのアプローチが有効**





### 3. 提案

#### ① 具体的方策

☆既存の取り組みベースの市内企業への就労体験プログラム改変。

＜幅を広げ、参加者を増やす＞

短期プログラム

(数日～1週間程度で、気軽に参加しやすいもの)

～中・長期プログラム

(移住・就職も視野に入れたもの)

・愛郷会Youthメンバーをはじめとする、首都圏在住の松山にゆかりがある人を中心に

・地方の暮らしや地方創生に興味がある、首都圏在住の松山にゆかりがない人にも幅広く声かけ

・現地(愛媛)でプログラムに協力してくれる若者も募る

・松山出身者による地元の魅力再発見

・首都圏在住の非松山出身者による松山の魅力発見  
& 第二の故郷として松山市への定期訪問

☆参加者による体験談を通じ、  
＜体験の輪を広げていく＞

## 3. 提案

### ②期待される効果

#### <短期>

- ▶ 市内企業への若手人材の斡旋による労働力不足解消
- ▶ 松山出身者の愛郷心を育む→地元就職人材の確保
- ▶ 複(副)業で愛媛に興味を持った若者が、将来の勤務地候補として愛媛を入れるようになる
- ▶ 転職も視野に入れた交流人口の確保

#### <長期>

# 参考文献

- ▶ 経済産業省「少子化対策に資する 地域の包摂的成長について」

[https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/shin\\_kijiku/pdf/020\\_05\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/shin_kijiku/pdf/020_05_00.pdf)

- ▶ 和歌山CREW公式サイト

<https://wakayamacrew.jp/>

- ▶ まつやま市移住体感ツアーの参加者を募集します

<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/hodo/202308/matsuyamaijutour.html>

- ▶ だんだん複業団公式サイト

<https://dandanfukugyodan-matsuyama.jp/>